

2011年3月17日大橋理事長被災地訪問報告会議事録

日時：2011年3月18日（金）16：00～18：00

場所：早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

出席者：別紙参照

【本報告会で情報共有した連絡先など】

- ・内閣府（代表）03-5253-2111（災害ボランティア連携室を呼び出し。担当：西田、大井）

* 直通電話は個別に大橋まで問い合わせ。

電話で呼び出す際は西田さん（男性）、または大井さん（女性）を呼び出すとよい。大橋の名前を出して連絡を取ることは可能である。

- ・福島県災害ボランティアセンター 024-522-6540
024-522-6546（FAX）
pref.f.svc@gmail.com

- ・現地で活動している団体

ピースボート（合田：宮城県石巻拠点）03-3363-9967

SVA、ピースウィンズ・ジャパン（岩手県気仙沼）など

- ・経団連関連窓口（担当長沢）

【報告内容】

<震災ボランティア連携室・震災ボランティア連携チームについて>

（配布資料に基づき報告）

3月11日の震災後、辻元清美議員が災害ボランティア担当首相補佐官に任命され、震災ボランティア連携室・震災ボランティア連携チームが設置された。

震災ボランティア連携室（以下連携室）人事体制は以下のとおり。

室長：湯浅誠（内閣府）

次長：佐藤文俊（内閣府）

室員：佐藤尚之（電通）、田村太郎（ダイバーシティ研究所）、藤井直樹（内閣府参事官）、小林洋司（内閣府参事官）他数名

本連携室にNGO、NPO側から2名ほどの人員要請がある。現在JPFとJANICが積極的に活動しているが、連携室に参加することにより拘束時間が増えてしまう恐れがあるので、個人的には避けたい。

連今後しばらく連携室との毎日ミーティングを要請している。しかし未だ混乱しており、その余裕はないかもしれない。

<今回被災地訪問の背景>

（配布資料1．背景参照）

（JANICの正式見解ではなく、大橋個人の解釈であることを了承いただきたい）

以下、報告書以外の詳細。

- ・15日の会合で車両通行許可証のことが問題になり、これが原因で多くの団体が動けないことが明らかになった。それを希望する団体リストも提出済みであり、いずれ（1週間ほどで）解消される問題である。なお、リストに掲載されていなくても許可証は発行される。
- ・今回東北自動車道の中のガソリンスタンドでは、ガソリンも購入できた。数量制限の可能性はある。現地でも、当初ガソリンがあった段階では許可証で優先的に購入できた。
- ・16日の「広がれボランティアの輪」の幹事団体の会合にはネットワークの必要性を問う団体中心に30名ほど集まった。

- ・ NGO と NPO の違いについて。多くの NGO はこれまで災害支援で集めた資金は残しており、新たに災害が発生した時にそれを活用してすぐに活動を立ち上げることができるが、多くの NPO はそれができないため、ネットワーク団体を作っても事務機能をどこに置くか、どこまで持つか、不明な点が多い。

< 現地視察について >

(配布資料 2 . 主な動き参照)

以下、報告書以外の詳細。

- ・ 報告書タイトルには「 辻元補佐官同行 . . 」とあるが、出発直前に辻元補佐官の同行はキャンセルとなった。
- ・ 通行許可証について、NPO 法人にも認めるとの警察庁の通知は全国所轄警察署に回っているので、現地の所轄警察署で一旦通行を断られたとしても、それを示すことで有効性が高いといわれている。
- ・ 通行許可を申請する団体リストには取得時の混乱を避けるために作成したが、リストに掲載されていなくても通行許可証は取得できる。条件は緊急救援であればよいという大雑把な状況だ。
- ・ 通行許可証について、1 団体何台でも取得可である。
- ・ 高速の路面はでこぼこで、一部修理中だったので、毎時 60 ~ 70 キロでみな通行している。
- ・ SA は断水していなければ開いているので食事も摂れる。客は少なく、炊き出しもある。
- ・ 高速など徐々に車両が増えてゆくだろう。高速バスは現在も通行している。許可証も必要なくなるとの予想。

(撮影した写真の解説を含めた報告)

- ・ せんだい・みやぎ NPO サポートセンターを大橋が訪問した。スタッフ約 40 人中 20 人ほど出勤していた。スタッフのご家族で被害を受けた方がいるとのこと。
- ・ 仙台のようす。電気、水道は 2 ~ 3 日前に通ったがガスの供給はまだ。訪れた街中は地震の爪あとはほぼない。宮城は地震地域なので、もともと建物を頑丈に造ってあるとのこと。
- ・ ほとんどのコンビニは食料がないため閉店している。
- ・ 県庁前には自衛隊、赤十字の車両が停まっている。
- ・ たくさんの掲示板が県庁にある。
- ・ 宮城県レベルの体制は県の災害対策本部があり、総理府からも派遣要員がいる。
- ・ NGO と関わるのは県社協だ。
- ・ 【みなさんに伝えたいこと】 NGO は自己完結的に活動できるが、ボランティアなど個人が被災地に行くと宿泊などの問題が出てきてしまう。現地に向かう際は食料、宿泊などを確保し、かつお世話になる予定のカウンターパートとよく相談の上で活動のこと。団体で活動する場合は、少なくとも県の災害ボランティアセンターには活動内容など事前にお断りを入れること。特に宮城県はボランティアが個人的に来ることをとても恐れている。必ず組織化して来るように、当面はボランティアが個人的に来ることは控えてとのことだ。 NGO が自己完結的に来る分には OK だと言っていた。
- ・ 壊滅的な被害を受けた若林地区にある避難所の六郷中学校を訪問した。5 つの自治区がある地域だ。それぞれの区長が住民からの要望などの細かいメモを取っていた。区長会のリーダーシップが強く、それなりに秩序だった。物資も十分ある、比較的状态のよい地域であった。
- ・ 福島県の社協を訪問した。また、県の災害ボランティアセンターが既に立ち上がっていた。社協からの応援人員が全国から多数入っていた。今後の問題は市町村レベルのボランティアセンターの立ち上げだ。そこがどれだけ機能するかが問題だと思う。
- ・ 福島はやはり原発の問題をみな重要に受け止めている。しかし、他県からも大勢の人員が集まり頑張っている。我々も元気づけられた。
- ・ 福島は NGO が入っていない地域だ。 NGO は宮城県に圧倒的に多く入っている。岩手県にはピースポートが入った。 SVA は気仙沼に入ったが、十分ではないようだ。
- ・ 福島県は、原発を中心にして、10 キロ圏内の方が逃げ、次は 20 キロ圏内の方が逃げて、と連鎖しており、

複雑化している。その前に津波被害の方も逃げている。パニックに近い状態だ。

(資料裏 主なポイント参照)

以下、報告書以外の詳細。

- 1) 避難所の被災者にはガソリン不足で足(移動手段)がなく、親戚などを頼りたくても不可能。モノも運んでこれない。被災初期はガソリンが購入できたそうだが、今は県庁にもモノがない。ガソリンを積んで移動する車などもある。しかし来週には解消するのでは、と理解している。
- 2) 災害直後の急性期・亜急性期が長く、復興期に入れずにいる。そのため個人のボランティアはお断りの状態。しかし、会津など一部の地域は落ち着いているがその会津地域に人が現在移っているので、今後は分からない。
- 3) 個人ボランティアの時期ではなく、団体として自己完結的に来てやってほしい、という方針を尊重すべき。
- 4) 仙台で ADRA が活動を始めており、大橋は仙台県庁で会った。
- 5) 市町村の災害ボランティアセンターは全体の 3 分の 1 が立ち上がった、または立ち上げる準備をしている段階。宮城県沿岸部は壊滅的な自治体もいくつかあるのでバックアップが必要。個人ボランティアを受け入れているのは、この 3 分の 1 のうちのさらに 3 分の 1 くらい。近隣の日帰りで来られる人に限る。県レベルから入った方がいいだろう。自治体のスタッフも被災して混乱している。
- 6) 福島から県外に流出する人は、当日 1 万人との報道が NHK であったが、現地の社協はそれを報道で初めて知った、というくらい状況を追えない。県外に出た人のケアをどこにお願いするかという全国化する問題となっており、NGO が関わるべきかもしれない。福島県では凍死者がでた、という情報がツイッターで流れた。それを受けてピースボートが現地に向かった。
政府も県外に出たい人が出れるようにするべき、との考えだ。さいたまアリーナに何百人もいるとのこと。その他、各地で引き受けが始まっている。現場外での活動として NGO も考えるべき。
- 7) 市区町村レベルのボランティアセンターをどう作るか? ボランティアコーディネータの派遣などが今後の課題だが、NGO としてはあまり活動していない分野だ。全社協や支援 P が中心となって活動するにあたり、NGO に対してもリクエストがあるかもしれないし、それに応えるべき。
- 8) 宮城県はまだ個人ボランティアには来てもらっては困るとのこと。
- 9) 医療・福祉の専門家集団としては例えば民医連などが現地入りしている。誰が動きを把握しているのか不明。彼らの一部は女性やセクハラの問題、障害者問題を扱っている専門的団体があるはずだが、把握できていないことが課題だ。
- 10) 以下大橋メッセージ。自己完結を前提に活動すべし。現地との連絡を十分取ること。物資は外から持ち込み。現地のいろいろなニーズに柔軟に対応するべき。
- 11) 長期戦が予想され市区町村社協の疲弊化が心配。外国 NGO が参入してくるので 3 月 19 日 13:00 ~ 大手町ビル 670 号室にて JPF が外国 NGO 向けに説明会を開催する。大規模な外国 NGO の参入により、部分的なインフレなどが起きる可能性が考えられる。不可避な部分、コントロールできる部分がそれぞれあるので、なるべく日本の NGO と組んで欲しい、マッチングができれば一番よいだろう。現地に行ってみれば外国の NGO は被災地でなく東京でケアをお願いします、という雰囲気。しかし、資金面で協力が期待できたり、日本の NGO も学ぶことも多いだろう。うまく調整が必要。

19日から主たるメンバーが集まって支援室で毎日ミーティングを行う。JANICは参加するが皆さんも出席可能だ。

繰り返しになるが、ボランティア系はリハビリ期に入ってから、緊急期は遠慮するというスタンス。NGOは今が活動の時期である。違いを乗り越えて市民セクター全体と一緒に動きたい。

外国NGOの参入についてJPFに圧力が来ている。外務省の動きはよく見えない。恐らく外国NGOのリストを公開して日本のNGOがカウンターパートになるような動きとなるのではないかと。

19日の外国NGO向けの説明会には現地入りしたい外国のNGOが参加する。その団体リストもある。車両が入れなくていららしているの、そうした説明するらしい。日本のNGOの中で彼らと組んでもよいという団体は参加して欲しい。リスト内のNGOの内、すでに在外公館などで受付、すでに入っているNGOもある。辻元議員が問題視していたのは、外国NGOをどこが仕切るのかという議論だ。外務省かNGOなのか、民連室、連携室なのか。現場での外国NGOとの行き違いは不可避だ。ある程度組んでそれを減らすことが日本のNGOの役割ではないか。現地のボランティアセンターに迷惑をかけないように、NGOが協力するべきだ。JANICは情報提供を行いたい。

さらに辻元氏によると、連合が動こうとしている。生協も現地事務所を開設する予定。宮城県民の7割が生協会員という背景を受け、物資を輸送するトラックはある。しかし通行許可の問題で動けなかったとのこと。JAも動く。JCも支援Pのメンバーであり、経団連系統で動く。トラック協会が何百という単位でトラックを出す。これらの動きを受けて、来週には状況は大きく変わるだろう。

NGOにとってはそれらの支援が入るまでの間、1週間程度かもしれないが、活動期間だろう。

医療関係については連携室から離す。海外経験のあるナースが4800人待機している（看護師協会による）、やはり通行許可の問題で動けずにいる。

JOCVのOBが現場行きのために待機している。外国NGOと組み合わせるというアイデアもある。

NPOボランティア基金が既に億単位の募金を集めている。中央共同募金会に義捐金とNPOを支援する募金としてソニーから3億円募金があったと聞いている。

【質疑応答】

東北から違う地域への移転は始まっているか。誰がアレンジしているのか。

始まっている。アレンジは今の段階では政府は行っていない。早くやるべきだ、という声が議員からある。仙谷氏を中心とした対策本部の民生部門が新たに立ち上がり全体のことを調整している。しかしそれぞれの範囲を取り扱うのかもはっきりしていない。福島県では全部で訪問した時点の避難者96000人の内、62000人は原発関係で移転したが、知人宅に避難した人などはカウントできていない。移転者は山形から新潟などに避難しているらしいが確かな情報が入らない。集落、施設単位で避難しているらしい。

県単位での受け入れについて情報はあるのか。

まとまっていないようだ。例えば、福島市には避難してきた人の大まかな情報は入ったが市が広くて車がないと動けないため情報がそれ以降ない。

今回視察の経路の様子を知りたい。

東北自動車道を通りした。全線開通しているが道の状態は悪い。デコボコとしている。郡山から先くらいは50キロ制限となっている。朝8時に出発し、午後2時半に到着した。途中2回ほど休憩し、6時間くら

いかかった。途中の給油（仙台）は 20～30 分位かかった。往路では数量制限をかけられた。夜中でもスタンドは空いている。

天候はどうか。雪は降っていたか。

降っていた。下の道は大丈夫だ。本当に僻地に向かうならタイヤの切り替えが必要。

市町村レベルの社協、連合、生協等が NGO のカウンターパートとなる際、NGO にもよるが、長く付き合う団体の場合はボランティアコーディネートなどの点も考慮して欲しいとの要望がある。県社協単位で断りを入れる対応でよいか。

県より上のレベルで行う必要はない。県との関係でよい。

日本中のボランティアコーディネートのプロの 60 人くらいのうち 20 人くらいが被災したそう。

連合は何をやろうとしているのか？

辻元さんが生協など各団体を回っているが、現在、具体的なことは不明だ。動き出すとすごいだろう。せっかく連携室ができたことであるし、NGO もうまくリンクできると活動しやすいだろう。

災害急性期に各セクターが共同して動くという感覚が日本は遅いと感じる。政府側の辻元氏に NGO から話やすいので訴えたい。

JICA からは報告あるか。

JICA 東北によると水道、ガスもない状態だったが、今日 18 日復旧したらしい。NGO に対して何か協力できないかとの話があったそう。NGO から提案する形でも、何か要望があれば言って欲しい。JICA 東北の事務所は支所のため小さいが仙台駅前のビルの一角で立地はいい。提案があれば伝えます。

経団連関連企業は窓口が経団連 1%倶楽部で一元管理する動きがある。長沢さんが担当だ。

NPO センターがつながってくれるだろう

JANIC 災害対策タスクチームスタッフについて

JVC の設立期のスタッフであり、JICA にもいた田島さんを半年程度 JANIC のスタッフとする。

山口、田島がタスクチームの中心となる。

【現地で活動の団体からの情報など】

SHARE：18 日に第一陣が出発。日曜日に医薬品を運ぶために山形経由仙台に入る。名取市の病院を拠点。

JVC：清水と下田が上記 SHARE のロジをサポートする。IVY 山形のサポートをしながら様子を見る。

山形も次の焦点になるだろう。山形は避難民の受け入れ地、また中継基地として二つの役割を担っている。

宮城沖地震を想定して、山形は元々準備態勢がある。道路の造り方なども震災を見越している。

ADRA：渡辺日出男が仙台に入っている。

難民支援協会：JPF グループに所属しているので情報は入手している。被災地に残っている外国人支援を考えている。19 日の夜中に仙台に行く。仙台が最も外国人がいるところとの予想だ。仙台の知り合いからの情報によると、港沖にコスモ石油の大きなタンカーが停まっている。街中に供給されるのは時間の問題だろう。また、FM わいわい（神戸）がネット経由で 10ヶ国語の放送を行っているが、同様のコミュニティ FM の動きがあるかどうか調べてくる。

宮城のコミュニティ FM の社名を聞きそこなったが、燃料の関係などでボランティアの都合がつかない。FM わいわいに委託して音声データを放送する手配をすすめているらしい。

ワンファミリー(湯浅氏関連)(大橋からの情報): 仙台で炊き出しを行っている。5~6人なら宿泊できる施設を持っている。もやいのグループを頼って欲しい。

電通(大橋からの情報): キャンプによりモノのばらつきがある問題について、SNSに情報を載せることを考えている。しかし電源がない地域があり、伝わらないという問題もあり、また、情報を広げ過ぎたときの問題もある。

パレスチナこどものキャンペーン: 岩手に入る予定だ。岩手の情報はるか?また、仙台の情報だが、イスラム教徒がモノを運びあっているらしい。運転手も日本人でないらしい。トルコのNGOが入っているという情報もある。

岩手は情報があまりない。

アユスがお寺を紹介できるとのこと。

シャプラニール: 北茨城、南福島へ入る。盲点となる地域だと思っている。物資がどこで買えるか?トラックのレンタルはどこ?など問題が多い。レンタカー屋は現在貸し出してくれない。物資購入も関東近辺は品薄状態。関西、新潟からの調達を考えないと同じものをたくさんというのは難しい。受入はNPOセンター関連に体制は作ってあるが輸送するモノの確保、手段が難しい。

本日(18日)辻元氏がトラック協会へ行っている。NGO系に何台か確保して欲しい、また、業界の集積場所に物資を運べば被災地の集積場所に運んでくれるようにと要求したい。要望あれば大橋か山口まで。

今は引越しシーズンでもあり、トラックを借りるのは東京だけでなく、大阪でも困難だ。輸送だけの部隊をつくるというのではないか?各NGOとアサインして動かないと、物資はあるが、トラックがないという状況だ。物資をストックする場所の確保なども含めて誰かがまとめてくれると効率がよい。また、ガソリンの携行缶がどこに行ってもない。

WE21: 現地に入れない小さいNGOや市民から物資の支援の申し入れが多数ある。IVYが県内からの物資集めを行っているが、県外市民のからの物資申し出はどう受けられているかとの問い合わせも多い。IVYも県外からのルートがあれば量を確保してあるのならば受けたいと言っている。早めに共有したい。

一般の方の物資受付は各自治体で行っている。NGOが取りまとめることは恐らくないと思う。

ピースボート: 東京事務所に物資を置いて、許可の取れた車から少しずつ運んでいる。山形を拠点にするか最終的には決定していないが山形、米沢に倉庫が確保できた。倉庫の持ち主が周辺の倉庫に声をかけてくれる予定だ。山形近辺ならば手伝える。東京から直接石巻へ行くルートの途中であれば定期的にトラックを出す予定なので協力できる。震災の影響で市内でも閉店する店舗があり、スタッフにトラックなどを提供してもらった。

シャプラニール: 奉仕園となりのアイビーハウス1階、キリスト教文化会館の1階11号室を1ヶ月間無料で貸してくれるので、ストックヤードとしたい。早稲田近辺で困っている団体は利用して欲しい。明日、積めるものは積んで出発する。

物資について、衣服、防寒具は恐らく体制が整うころには不要になってしまうので送るのなら1週間以内がよいだろう。これらの物資は声をかけると集まりすぎるので慎重にした方がよい。

トラックは、日産レンタカーと直談判している。ハイエースくらいなら貸してくれる可能性があり、現地で小回り用に使う。コネ、ネットワークが大事だろう。

セーブザチルドレン: 宮城県仙台市若林区六郷中学校近くの七郷小学校内に「子ども広場」を作った。子どもが避難所生活のストレスから開放されて遊べる場所だ。親が子どもの面倒を見なくてはいけないというストレスも解消してもらいたい。この先の展開は未定で検討中。福島原発問題があり、仙台市も危険区域になる恐れもある。

避難所生活における子どものケアについてまとめた冊子があるので、活用して欲しい。HP にアップする。連携室も同様の情報をアップロードする予定だ。

JANIC の情報について：サイト内に災害のページを立ち上げた。正会員の活動紹介。関連組織の情報。一般の方向けの Q&A。NGO サポート募金のページ（現在約 1100 万円の申し込みあり）。物資の支援などについての問い合わせに関して JANIC を紹介しているがよいか？

JANIC で対応している。たとえば物資の提供の問い合わせは各都道府県の窓口を案内している。現在は主に募金の問い合わせ、物資の問い合わせに対応している。各 NGO からの情報を取りまとめている。また、リンクで取りまとめているところを紹介している。

支援に関して管理費はどれくらいを設定しているか、伺いたい。海外の支援に関しては管理費を設定しているが、当初募金のみ活動を予定した際は管理費を設定しなかった。しかし直接のオペレーションを行うことになり、管理費が 0 というわけにいかない。NGO は取るのが前提。団体によってギャップが大きいのも問題か。

JPF：企業から 10%、個人から 15%が通常。今回については分からない。

JANIC：NGO サポート募金は 15%だ。

10%～15%とは受け入れられやすい数字だと思うが、各団体過去の管理費と照らし合わせて説明できるようにしておいたほうがいい。NGO 間での合意は必要か？

不要だろう。NPO とのすりあわせも混乱するので不要だろう。

【JPF 主催海外 NGO とのミーティングなどについて】

3月19日（土）コーディネーションミーティングを開催する。

JANIC 加盟 NGO、JPF 加盟 NGO、海外 NGO 間でのコーディネーションに関するキックオフミーティングだ。

日時：3月19日（土）13：00～

場所：大手町ビル（JPF のあるビル）670 号室

NGO 以外では外務省、国連機関（UNHCR）、連携室が参加予定。

・横の連携を取り、コーディネーションすることが目的だ。明日の会議は立ち上げだが、今後が大変だろう。現地での動き方などまだ決まっていない。週末に現地に行って調整する。コーディネーションのための事務所機能をとりあえず仙台に設置してくる。

・宮城県庁では、外国の NGO には来ないで欲しい、との強い要望があった。いかにして外国 NGO ともうまくやってゆくかはみなさんの協力が必要。最も重要なのは被災者にとってよい形になることだ。

・外国 NGO でコンタクトがあったのは約 10 団体だが、現在日本にいるかどうか分からないので、ミーティングへの参加は未定だ。恐らく海外 NGO も困っていて、問い合わせしているのだろう。たらい回しになっているようだ。JPF へいきなりやって来た団体もある。明日は状況を説明して、現地での立ち上げ、物資の足りないところなどへ海外 NGO が活用できる部分もあるので、ケアしたい。

・外務省と連携室が別々のコーディネートでいいのかとの問題も発生している。一元化した方がよいかもしれないが、連携室から各県レベルに人材を派遣できるのか？難しいことは認知している。省庁との話も重要。現地での受け入れに関してどこが担当するか、受入中核がないといけないだろう。市町村など細かいレベルでのコーディネーションが必要だ。たとえば国連機関の人材に協力してもらうなど話をしているが具体化していない。現地に語学ができる人がいるなら雇用するのがよいと思うが状況次第だ。

海外 NGO からの問い合わせあれば、案内状を転送していただければ、と思う。JPF へ問い合わせを転送することも可能だ。

次回緊急災害ミーティング予定 3月22日（火）15：00～17：00 YOU Iホール